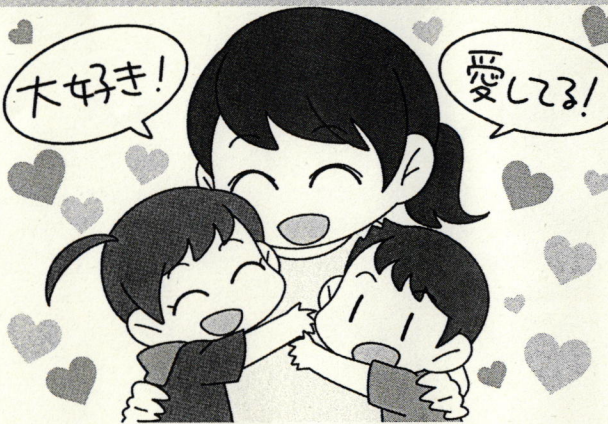


大好き、愛してると言われたら、うれしい!

「親子の対話の時間」の成果

情緒的絆が強ければ強いほど、子供は母から離れて自発的に行動ができるようになる。

教育ジャーナリスト 渡辺 研



イラスト/森永みぐ

中でハグと言葉掛けによって子供に愛を伝え、子供がお母さんに愛されていることを実感できるように努力し、親子の情緒的絆を深めること」であった。

講義中、パーテーション越しに子供たちの泣き声が絶え間なく聞こえてきていた。講義後の「再会」時、母親は我が子を自然にギュッと抱きしめた。宿題のクリアはきつと難しいことではなかっただろう。

子供の自律性が育つまで

前回は、1歳児と2歳児は一緒に部屋で過ごしたが、第4、5回は別々の託児室が設けられた。その都度、改善しながらの実施だった。第4回目の講義では「子供の身体的・情緒的・認知的発育は遊びによって促されるため、子供が夢中になって遊べる環境を作り個性を伸ばすことの大切さ」について学んだ。託児室には子供の興味をかきたてる遊びの空間が用意された。親子の対話の時間に、お母さんは保育士から子供がどのような遊びに夢中になっていたのかについて報告を受け、子供の個性や成長の様子を客観的に知る機会を得ることができた。

講義の間、聞こえてくる子供たちの泣き声は、実際にとても少なくなっていた。第5回目の講義では「子供の前向きな心と自律性の育て方」を練習した。お母さんとの

を、毎回、見る事ができた。

◆子供はお母さんの行動を見て人との接し方を学んでいく。お母さん自身が周囲の人たちと上手に関わることができるようになれば、子供のコミュニケーション能力もおのずと伸びていく。講義ではお母さんの言語・非言語によるコミュニケーション能力を高めるエクササイズを多数導入した。心を向けること、相手の目を見て話すこと、相手の気持ちを想像して表情も合わせて共感を示すこと、握手やハグで気持ちを伝えること、手をつないで声を出すヴォイスワークではお互いの声を聞いて、ハーモニーを楽しむことなどを通してお母さん同士が親近感を持つようにした。

インタビュアーでは、身体的な接触（握手、ハグ、手をつなぐ）を通してお互いの体温を直に感じることで親近感が湧き、心の距離が一気に縮まったという感想が多く出された。コミュニケーション能力はスキルのみでの研修では身に付けることはできない。心が通じ合っただけでコミュニケーションが成り立つ。そして、お互いに信頼し合うことで良好な人間関係が築かれる。この信頼関係は親近感がベースとなって培われていくと言われている。本講座の目標であった「お母さん同士の心の交流」も促進できたと思われる。

取組は、まさにジャストビギニング。今年度も可能な限りレポートしたい。

愛されたいという思いを実感させる

神奈川県綾瀬市の「親子の対話の時間」が、「親子の絆を深めるコミュニケーション」として今年度も実施されている。いずれ、その様子もお伝えしたいが、昨年度全5回の取組成果を、講師の梶谷久美子先生が報告書の形でまとめられておられる（アンケートやインタビュー等の結果も加味して）。お母さんたちにどんな変化があったのか、お願いして報告書を引用して紹介させていただくことにした。

情緒的絆が強ければ強いほど、子供はお母さんから離れて自発的に行動ができるようになる。日常生活の中でお母さんが意識して子供への愛を伝え、情緒的絆を深めていたことから、子供たちは回を増すごとに、お母さんから離れて遊びに集中できるようになっていた。親子対話の時間にお母さんが託児室に入ってきていても気付かずに遊びに夢中になっている子供たちもいた。お母さん自身もそうした変化を目の当たりにすることができたが、保育士から子供の変化を報告してもらえらることで、お母さん方は客観的に子供の成長を確かめることができたと思われる。

◆抱きしめてあげることが大切
親子の情緒的絆の深まりについては、母親の言葉が報告されている。ほとんどのお母さんが、講座に出席するまで、子供に言葉で愛を伝えていなかったとのことだった。「大好き」「愛してる」という言葉を口にするのが恥ずかしいというお母さんもいた。「自分は、大切な人に大好き、愛しているとされたらどんな気持ちですか?」と尋ねたら、「恥ずかしいけれどうれしい」という答えが返ってきた。

大人であっても、自分が愛されていることを言葉で伝えてもらえたらうれしい。子供はお母さんのことが一番好きなのだから、お母さんから「大好き。愛してる」と言われることが最高のご褒美なのだとお母さん方は実践したお母さん方からは「お母さんの言うことをよく聞いてくれるようになった」「託児のときも泣かずに一人で遊べるようになった」との報告をいただいた。

お母さんとの間で情緒的絆が確立されていると、子供の自律性が促されることが分かります。子供の成長をお母さん方はとても喜んでいました。また、親子の情緒的絆を深めるためには、子供を抱きしめてあげることが大切であることを伝えてきた。お母さん方からは「子供の方から抱きついてくるようになった」「泣いたときに共感を示しながら抱きしめると、すぐに泣きやむようになった」という報告を受けた。ハグの効果も実感していただけたようである。

家庭の教育力を高めるとは、こういうことなのだと思ふ。子供を愛して、それを言葉、体温、心臓の鼓動……全身で伝える。誰にでもできるはずだ。

母親同士に親近感が生まれる

母親同士が本当に大きな声で笑い合う場面